

平成17年度第1回宇都宮市生涯学習推進懇談会議事録

開催日時 平成17年10月19日(水)午後1時15分～

開催場所 14A 会議室

出席委員 21名(別紙のとおり)

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者 1名

役員選出 会長職に橋立委員を選出

副会長職に篠崎委員と松本委員を選出

議事

1. 報告事項

第2次宇都宮市生涯学習推進計画について

第2次宇都宮市生涯学習推進計画(事業計画)の進捗状況について

2. 協議事項

本市における今後の生涯学習推進の方向について

生涯学習市民意識調査の実施について

3. その他

発言の要旨

橋立会長 今回は、初めて懇談会に参加された方も多いことから、今までの生涯学習推進計画の経緯について、まず概略の説明をしていただき、全体像を把握していただきたいということで事務局のほうから説明をお願いします。

事務局 [「第2次宇都宮市生涯学習推進計画について」説明]

橋立会長 現在の計画を策定した際は懇談会の意見を参考に、計画に反映していただくため、意見書として取りまとめと提出を行った。今年度はとりあえず、ざっくばらんなところから入りたい。

小山委員 推進計画の概要の中で、数値目標について、学習活動をしている人の割合を平成22年度までに90%とあるが、残りの10%は病院に入院しているとかで参加できない人がいるということでよいのか。

事務局 推進計画の策定に当たって市民意識調査を実施しているところ。平成11年度の結果で、今後、生涯学習活動をしたいと答えた人が8

| | |
|------|--|
| | 3.7%だった。この方たちが実際に実現できることを目標とした。 |
| 小山委員 | その調査の対象は字の書ける成人が対象だと思うが、そうするとこの90%に乳幼児は入るのか。 |
| 事務局 | 調査の対象は18歳以上であるが、事業体系においては、0歳からの生涯学習に関わる事業を対象としている。 |
| 事務局 | 〔「第2次宇都宮市生涯学習推進計画（事業計画）の進捗状況について」説明〕 |
| 橋立会長 | 皆さんあらかじめ事前に資料を目を通していただいたという前提で進めたい。 |
| 藤井委員 | <p>2点おうかがい方々、お願いをさせていただきたい。生涯学習というのは一言で言えば自主活動であるから、たいへんさというのはよくわかるし、定量的とか定数的とかでは言えない事がたくさんあり、段階的といったほうがいいのかもかもしれないが、例えば、学習施設のバリアフリー化がC評価とされている。今こそバリアフリーが騒がれている時代はない。そういうところの評価を見たときに、何でこんなことができないのかと思えてならない。目標を達成するための課題の中に、厳しい財政状況にあるということで、お金がないからできないと言っている。じゃあ、他はお金がなくてもできるのかといえ、必ずしもそうではない。だから順列をつければどれなんだとなったときに、バリアフリーというのは、後回しになったとしか私には捉えられない。なぜかという、その隣を見ると、今後の対応として、バリアフリー事業の必要性を広く理解してもらい、適切な目標を定めるとある。お金がないということを誰に理解してもらうのか。市長でしょう。そういうことをこの場で表現していいのか。そのまとめ方についておうかがいしたい。</p> <p>それからファミリーサポートセンターについて、これも最近の事業としては、とっても喜ばれている事業だと思う。利用者の世帯数の数値が表示されていない。この一年間に利用した世帯数がどうだったか、一世帯あたり何回くらい利用していたのか、わかりましたら教えていただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>学校においては再整備計画がある。生涯学習センターにおいても再整備計画の策定作業にあわせて取り組みを進めていきたいところで、実施計画にあげるなどしているが、なかなか計画どおりには進まないことからこのような評価になっている。</p> <p>ファミリーサポートセンターについては、追って報告したい。</p> |

- 藤井委員 バリアフリーは益々深刻になってくる。これは生涯学習にとらわれず全庁的に取り組んでいる課題であるから、何もこの場の中でとやかく言うことでないかもしれない。この場での捉え方はミクロ的な捉え方だと思う。係の方が一生懸命やっているのはわかるが、しかし今の答弁では、何をやってきたのか、といたい。生涯学習課長はどう考えるか、課長から答弁いただきたい。
- 事務局 バリアフリー化の事業は、重点事業として要望はそれなりに出している。総体的な予算の中で、枠の問題もあり、なかなか追いつかないということもあるが、重点事業として位置付けているので、この重要性について説明していきたい。
- 藤井委員 最後に要望だけ申し上げる。予算であるので、一気にできないのは理解するが、あくまでも全庁的な予算要望を実施していくのであって、ここに改めて取ってつける必要はない。小学校のことは小学校に任せていけばよく、学校教育課か何かがやればいいのであって、生涯学習課が改めて錦小や新田小にやりましたなんてことは評価することではない。繰り返すようだが、バリアフリーの必要性を広く誰に理解してもらうのか、そこだけ課長、答えていただきたい。
- 事務局 全体的な評価をなぜ生涯学習課がやるのかということもあるが、生涯学習に関して、本市全体の事務局を生涯学習課がやっていて、たしかに表現については、適切でないところがある。今後、進捗状況を適正に管理し、生涯学習の推進をしていきたい。
- 橋立会長 議会での質問の答弁のような展開でちょっとまずかったかなと思いましたが、実はそうでなくて、藤井委員の言ったのは、バリアフリーというのは全庁的な目標になっていて、例えば、一番先に市役所をやらないといけないとか駅をやらないといけないとか、別の判断基準で進んでいるもので、生涯学習だけでいうから、まだ進んでいないということになる。こういうご指摘はたいへんありがたいもの。バリアフリーを忘れていないということで計画に書くことはいいが、評価を他のものと並べたところにちょっと無理があったのかと思う。
- 私から一つ。C評価がいくつかあるが、それは行政或いは市民の力が足りなかったためにC評価になってしまったのか、或いは社会環境の変化等で事業の意味が薄れたというのがあると思う。ポイントが変わってきたというのがあって方向転換をしなくちゃいけない事業がこの中に混じっているのかと思う。是非次回に役所としての考えを教えていただきたい。

| | |
|------|--|
| 小山委員 | <p>錦小については、バリアフリーの必要な方が入学されたということで、おそらく新田小でもそうで、過去にある小学校で車椅子のお子さんが入学されたのに、学校側の受け入れ体制が整ってなくて親御さんが個人的にボランティアを募集されたりしてたいへんご苦労されたとうかがっている。そういうところは重点的にやってほしい。</p> |
| 山本委員 | <p>重点事業のホームステイについて、評価がCということで、私の地域でも2度ほど取り組みしたが、結果的には参加がなかった。今年については、受入世帯がなかったということで、結果としてはCでやむをえないというところかもしれないが、107項目を計画する段階で、今の説明では全庁的というのがあったが、実際はあまり全庁的でないように見える。それなりに各専門部門の話が入っているから結果的にそう悪い評価にはならないという気がする。それでC評価が出るというのは、打合せが足りないのではないか。やることによってある程度実績が上がるような、そういう形をまず検討してから地域におろすようにして、事前の協議が足りないのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>事業の計上にあたっては、生涯学習の推進に関連する事業として関係各課への照会をして、まとめ上げたものだが、ご指摘のような反省点もあり、今後の事業計画には、生涯学習を推進するのに効果的な事業を、選定していきたい。</p> |
| 橋立会長 | <p>あげたからにはC評価はなくしたいと思うが、その中に反省点が含まれていると思うし、また世の中の変化に合わせて変えていかなくてはならないものが見えてくるのではと思う。</p> |
| 事務局 | <p>〔「本市における今後の生涯学習推進の方向について」説明〕</p> |
| 細谷委員 | <p>今回は初めてだからやむをえないが、二日前にわれわれ委員のところに資料が届いているのは、目を通しておいくださいということ。事務局の説明中心でなく、もっと委員の発言時間をとって欲しい。丁寧に説明するのは結構だが、時間を有効に使わせていただきたい。</p> <p>生涯学習推進事業の方向性というところで、今後学習に対する個人の需要と社会の要請とのバランスを保つというのがあがっている。今の生涯学習はこのバランスがかけていると思う。ある意味では、生涯学習のいろいろな活動の中では個人の趣味的なもの、それも当然生涯学習だが、しかしながら今後必要だということを、昔の社会教育の流れの中でもあったが、何々の講座をつくって、そこで汗をかいて講座をやりながら、そこで育った人をサークル化していく、</p> |

これが基本だと私は思う。しかし今このバランスが、われわれの地区市民センターでは完全に崩れている。この崩れたスタートに、公民館活動と生涯学習推進組織というのがあるが、ここがハッキリしている地域はあるか。まちづくりの部会に生涯学習の組織がなるという地域がある。この辺をきちっとした上でやっていかないと、地区市民センターが趣味の団体のダンス教室に占領されたり、太鼓の教室にホールを使われ会議にならなかつたり、それが悪いと言っているのではないが、地区センターの、生涯学習の場所を大切にしてほしい。こういうところの整理をどうするのか。今の地区センターのなかで、整理できているところはない。公民館長もいないし、地区センター所長は、市の施設であるから、(地域に対し)こうですよああですよとはいえない。趣味的にやることも大切なことであるから、地域にいくつかのセンターがある中で、音響など、この施設のこれは使えますよというのも設備充実に必要なことだと痛切に感じる。そういうことを今後の推進の中で希望している。

事務局

各センターにお願いしていることがある。それは、まちづくり組織と生涯学習組織が別に立ち上がっている場所が存在している。そういう二つの流れでまちづくりができていくわけではなくて、生涯学習とまちづくりを一体とした地域の展開をやるために、できれば一本化した組織でやっていただきたいと地区センターにお願いしているところ。それで地域に温度差があり、すでに活動が活発なところも東のほうにある。そういうところは地域の実態に応じた体制でやってもいいとお願いしている。

このことは自治振興部でも危機感をもっているし、生涯学習課でも危機感を持っている。地区市民センターでは、地域振興事業費というのがあり、その中で生涯学習のどういうことをやっていただきたいと各センター所長にお願いをしているところ。今年度よりは来年度のほうが改善されたものをお示しできていると思っている。

卯柳委員

私は、全く自主的な清原ふれあい推進委員会という団体を立ち上げた。これはあくまでも自主的な生涯学習推進団体だということ。しかし、いま協議されていますように、その生涯学習を地域の中でどう進めていくのかということについて、今一番の指摘があったのは、趣味イコール生涯学習、この勘違いだけはしないでくださいよということ。あくまでも生涯学習とは何だということ、人づくり、地域づくり。これが一番大事だということで私たち清原では活動を進めてきたが、それは地域によって考え方は違うと思うが、これからはやはり生涯学習というのはまちづくりの一つとして非常に大きな位置を占め、生涯学習もまちづくりと一体として進めていかないといけない方向かと思う。もちろん宇都宮市の方針もそういうのが打出されていると思うが。私どもも自主的に進めているが、それを

見据えて、取り組むということになる。

細谷委員

地域でこういう先輩のような方がたが、そういう（組織を）地域で立ち上げて、地域でできる。そうじゃない地域は、公民館活動という一つの柱を組織機構改革で壊されて、わけのわからないものを投げ込まれて、そこでわからなかったら地域のコミュニティは崩れる。そういう地域がある。公民館長がいなくなり、生涯学習の推進組織、それがまちづくり組織の下部になる。これでは生涯学習、昔の公民館活動ができない。生涯学習推進組織の評価はBとなっているが、私の地域ではD以下。評価だからしょうがないが、来年からの計画で整理して欲しい。もともと生涯学習というのは教育委員会、まちづくりは市長部局。これが一体になる。こういうことをやるから、教育委員会不要論なんかも出てきてしまう。やるんだったらハッキリと筋道を立てて、そして、こういうものはこうなんですよと、キチッと指導して、来年からの計画づくりをやっていただければと、要望する。

橋立会長

生涯学習を市長部局へというのは全国的な動きでもあると思うが、現場の感覚を是非もって、現場の声をたくさん聞いていただきたい。

石河委員

一般公募の立場として、今後の新たな取り組みが求められる推進テーマに関する課題の「団塊の世代への学習活動へ参画するための支援」、これは本当に重要なこと、2007年にどっと出る。後2年そんなに時間は無い。参考になるかわからないが、私も団塊の世代なので、みんなで話したが、一般的に長年連れ添ってきた主人が定年退職を迎えたときに、家庭の主婦が何を一番求めるか、それは主人の自立を考えているらしい。主人が本当に自立してもらえるかどうか。主婦が今まで家庭の中心をやってきたけれども、本当にお父さん、家庭のことを理解できますか、ということが一番求めている。そのために具体的に生涯教育活動の中でどういうことをやったらいいのかと言えば、パソコン教室でも、パソコン教室を利用して、家計簿を作るとか、そういうものを付け加えたり、男の料理教室をよく地域でやってるんですけども、そんな難しいことをやらせる必要はない。簡単な料理教室をやって自立していけるのかどうか、うまくリンクして、団塊の世代の人たちが、老後を心身ともに健康で、楽しく生活できるように、できるものをやさしい形でということを考えているので、ニーズにあったというものはそういうものだと思う。何も難しいことばかりでなくて、やさしいことをより身近に教えてあげるといふのを進めて欲しい。

橋立会長

各テーマについては、以後の回で詳細につめていきたいと思うの

で、今日はこのテーマで足りないものが無いかどうか、ご意見がありましたらお願いします。

磯田委員

ITの活用について、個人のレベルでは進んでいるが、パソコンの活用を行政でももっと活用してほしい。放送大学なんか通信の形式でやっているが、そのような研修活動がまだまだできると思う。あとは施設の予約。家庭からでも申し込みができるような活用ができると思う。

課題の一つにITの活用をいれて欲しい。

和田委員

生涯学習とは、生まれてから亡くなるまでの長い人生での学習ということで、それはそうかもしれないが、高齢化社会が進んでいて、中高年に厚い対応をして欲しい。

もう一点は、NHK文化センターを運営している民間の立場から、民間の文化センターとは社交ダンスがあったりコーラスがあったり、自分の生きがいに来てくださる。行政は、自分で楽しむものは民間に任せて、そうではない、宇都宮の地域を学び、地域の歴史を学び、地域に還元できるようなものに力をいれてほしい。私どもでは受講料をいただき運営しているが、自治体では非常に安い。税金が予算として組み入れられているから受けるかたがたにメリットがある。そのメリットは地域に還元できる視点があるといい。

NHKの記者をやっているって全国を転々としていたが、宇都宮ほど地域に対する愛着が弱い感じを受けた土地が無い。どこに行っても、自分が住んでいるところを自慢するし、愛着があるし他を悪く言う。郷土の愛着が非常に強い。宇都宮は転勤してきてよそ者を排除するところが無いとても住みやすいところ。自然も豊かで、自然災害も少なく住みやすいところだが、逆にいうと、希薄な、宇都宮だという感じが少ないところだと思う。宇都宮というものを、あらゆる生涯学習の場で繰り返し述べていただければありがたい。

小山委員

青少年問題が多いのに危機感が無いのが驚き。なぜ危機感が無いのか。子育て支援をやってほしい。団塊の世代がお荷物的なイメージがあるが、決してそうではなく団塊の世代の人たちがこれまでの力を生かせる場をつくって欲しい。

橋立会長

実は昨夜宇都宮市の第5次総合計画の市民会議がありまして、世の中の変化について、考えるべきことの項目が挙がっている。今日上げられたテーマにかけている部分があるので少し話をすると、人口減少少子高齢化、地方分権の本格化、高度情報化グローバル化、社会の成熟化、協働によるまちづくり、団塊の世代の大量退職への対応、食育の重要性、財政の硬直化がある。

協議事項の2番目について、これについては手短かに説明いただい

て ,ご意見については ,後日事務局のほうにお知らせいただきたい。

事務局

〔「生涯学習市民意識調査について」説明〕

橋立会長

最後にその他で何かあるか。

事務局

今後のスケジュールについて ,来年2月に市民意識調査の結果の報告を兼ねてご意見をいただき ,さらに6月改定案をお示ししてご意見をいただき ,8月には改定というスケジュールで考えているのでよろしく申し上げます。

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席者名簿（平成 17 年 10 月 19 日）

| | 氏名 | 該当号 | 備考 |
|----|-------|-----|-----------------------|
| 1 | 半貫 光芳 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 2 | 小林 秀明 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 3 | 南木 清一 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 4 | 藤井 弘一 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 5 | 山本 正人 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 6 | 篠崎 光男 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 7 | 細谷 美夫 | 1 | 宇都宮市議会議員 |
| 8 | 橋立 達夫 | 2 | 作新学院大学教授 |
| 9 | 宮田 直美 | 2 | 手づくり絵本の会「ポコアポコ」代表 |
| 10 | 和田 宏 | 3 | N H K文化センター宇都宮支社長 |
| 11 | 卯柳 玄重 | 3 | 宇都宮市生涯学習センター運営審議会副委員長 |
| 12 | 山口 雅美 | 3 | 宇都宮市教育会会長 |
| 13 | 山野井 暉 | 4 | 宇都宮市体育協会会長 |
| 14 | 荒井 宗明 | 4 | 宇都宮市文化協会常任理事 |
| 15 | 花田 静子 | 4 | 宇都宮商工会議所女性部副会長 |
| 16 | 磐井 君枝 | 4 | 宇都宮市女性団体連絡協議副会長 |
| 17 | 大矢 裕啓 | 4 | 宇都宮市 P T A 連合会会長 |
| 18 | 荒牧 秀雄 | 4 | 宇都宮モラロジ - 事務所副代表 |
| 19 | 磯田 斌夫 | 5 | 公募委員 |
| 20 | 小山 涼子 | 5 | 公募委員 |
| 21 | 石河 正典 | 5 | 公募委員 |

：会長， ：副会長